



第59回日本母性衛生学会総会・学術集会

朱鷺の国から ～母性衛生のさらなる飛翔へ～

会 長：高桑 好一

(新潟大学医歯学総合病院 総合周産期母子医療センター 教授)

日 時：2018年10月19日(金)～20日(土)

場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

ランチョンセミナー 6

厳しい妊婦体重管理は必要か？ － DOHaDと先制医療から考える －

日時 2018年10月19日(金)12:00～12:50

会場 第7会場 (2階 中会議室201)

当ランチョンセミナーは整理券制(当日配布)です

配布場所 2階 アトリウム

配布時間 7:45～11:00(なくなり次第終了)

座長

渡部 信子 先生 トコ助産院 院長 トコ・カイロプラクティック学院 学院長

演者

福岡 秀興 先生

早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 招聘研究員

千葉大学医学部 客員教授 福島県立医科大学 特任教授

日本DOHaD学会 代表幹事

日本では約10年間、低出生体重児の割合が9.6%前後を推移している。多くの要因が胎児発育を規定するが、栄養摂取量の不足は出生体重低下の大きな要因である。

クル病・二分脊椎症も増加しており、妊婦の栄養状態は望ましくない。受精から幼児期は遺伝子発現を調節するメカニズムであるエピジェネティクスが大きく変化し、栄養はその中心(nutri-epigenomics)である。それ故胎内低栄養は生活習慣病発症の大きな素因である[DOHaD説：Developmental Origins of Health and Disease]。この時期の栄養指導は児の将来を大きく決定するものであり、周産期医療に携わる我々の責務は極めて大きい。皆様と共に考えていきたい。